

# 「少年の主張」弟子屈大会

令和3年度第41回「少年の主張」弟子屈大会が、6月10日、町公民館講堂で開催されました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のためビデオ審査で行われました。例年とは違った形式となりましたが、町内各小中学校の児童生徒の代表は、目で見て感じたことや

体験して思ったことなどを堂々と発表しました。最優秀賞には小学生の部で橋田 和さん（美留和小学校6年）、中学生の部で中原 実和さん（川湯中学校2年）が、それぞれ選ばれました。中学生の部最優秀賞の中原さんは7月26日に開催される「少年の主張釧路総合振興局地区大会」にビデオ審査で出場します。

## 「これからの川湯地区について考える」

川湯地区も少子化の影響を受け小学校、中学校の児童・生徒が減っていくことが予想され、「このままで大丈夫なのか？」私の中に疑問が生まれました。

みなさんは、義務教育学校という学校のしくみを知っていますか？義務教育学校とは、普通、小学校6年、中学校3年を別々の学校で過ごすのですが、義務教育学校は小中学校を一つの学校として、一く九年生までの九年間を過ごす学校です。このしくみは、二〇一六年から始まり、二〇二〇年五月の段階では、全国で約一二〇校あります。そこで私は、私が住んでいる地域にある川湯小学校・川湯中学校も義務教育学校にすればよいと考えました。義務教育学校となることのメリッ

## 中学生の部 最優秀賞



弟子屈町立川湯  
中学校 2年  
中原 実和 さん

考えた。体育館を小さな子どもが遊べるフリースペースとしたり、家庭科室の設備を生かしてカフェに、教室だった所を交流スペースにします。音楽室だった所は小さな赤ちゃんなどがゆっくり遊べる場所にするとういと思っています。地域のみなさんが普

## 「ヒグマと共に生きる」

みなさんは、ヒグマのことをどう思っていますか。プーさんのように、かわいい動物だと思いますか。それとも、オオカミのように、とてもこわい動物だと思いますか。私は、かわいい動物だと思います。

私が、ヒグマとのかかわり方に興味を持ったきっかけは、母から「クマは、人をあまりおそわない。」と聞いていたのに、最近厚岸であった事件では、クマが人をおそったので、不思議に思ったからです。インターネットで調べたところ、去年の事件は、一八一六件ありました。私は、なぜそんなに事件が多いのかおどろきました。私が読んだ『よいクマわるいクマ』という本には「クマは、人をおそおうとは思っていない。森に食べ物がなくなると、しかたなく人里においてきている。」と書

## 小学生の部 最優秀賞



弟子屈町立美留和  
小学校 6年  
橋田 和 さん

人は、まず小中学校を合わせるため、人数が増えることです。そうすると、運動会や文化祭もより盛り上がると思います。また、小学生もより専門的な学習ができると思います。得意な教科を専門的に詳しく知れたり、苦手な教科も専門の先生に聞けば理解できると思うからです。さらに、「中一ギャップ」の解消にもなると思います。中一ギャップとは、中学生になります。新しい環境に慣れず、緊張し戸惑うことが多く本来持っている力を発揮できないことです。ですが、義務教育学校になれば、慣れた環境の中で九年間を安定して過ごせると思います。

トは、まず小中学校を合わせるため、人数が増えることです。そうすると、運動会や文化祭もより盛り上がると思います。また、小学生もより専門的な学習ができると思います。得意な教科を専門的に詳しく知れたり、苦手な教科も専門の先生に聞けば理解できると思うからです。さらに、「中一ギャップ」の解消にもなると思います。中一ギャップとは、中学生になります。新しい環境に慣れず、緊張し戸惑うことが多く本来持っている力を発揮できないことです。ですが、義務教育学校になれば、慣れた環境の中で九年間を安定して過ごせると思います。

ですが、デメリットもあります。それは、小学校を中学校の校舎に移すとすると、小学校だった校舎が使われなくなるということです。そこで私は、「この建物を「川湯交流センター」として活用する」とよいと

いてあったので私は、クマが悪いわけじゃないと思っていました。最も多かったのは山菜採りの最中の事故でした。私はこれを見て、人が山奥の巣穴に近づいてしまったり、自分の存在をクマに知らせないまま森の中に入ってしまうのが原因ではないかと思いました。学校のみんなは、ヒグマのことをどう思っているのか知りたくてアンケートをとりました。そうしたら、「ヒグマと共存していきたい。」「クマを駆除してはいけません。」と、私と同じ考えを持つ人が多かったです。その人たちは、森に入る時、鈴やラジオなどで、自分の存在を知らせたり、森の中には一人ではいかなないようにしたりと、気を付けていました。このように考える人がいて、私はとてもうれしかったです。

ヒグマは、家族でなかよく遊んだり、えさをとったりして、山奥で暮らしています。それに、人と同じように、子グマが危険な目に合うと、母グマは、命がけで守ろうとします。実際に、厚岸の事件では、母グマが子グマを守ろうとして、人をおそっています。専門家の人達も、こう考えてこの母グマは、駆除しないことにしたそうです。私は駆除されなくて良かった。ヒグマは本当にやさしくてかわい動物なので、できるだけかぎり駆除しないで、共存していきたいです。



## 中学生の部 審査結果(敬称略)

- 最優秀賞 「これからの川湯地区について考える」  
川湯中学校 2年 中原 実和
- 優秀賞 「川湯を有名にするために」  
川湯中学校 1年 宮崎 楓
- 優良賞 「声無きものの声を聞く」  
弟子屈中学校 2年 辻谷 杏
- 奨励賞 「命の尊さ」  
弟子屈中学校 3年 佐々木 心優
- 奨励賞 「人想い」  
弟子屈中学校 3年 大越 悠矢

## 小学生の部 審査結果(敬称略)

- 最優秀賞 「ヒグマと共に生きる」  
美留和小学校 6年 橋田 和
- 優秀賞 「行動すれば世界が変わる」  
川湯小学校 5年 松橋 瑞穂
- 優良賞 「優しくしてしっかりした学校を目指して」  
和琴小学校 6年 在津 咲幸
- 優良賞 「地球のために人間はどうあるべきか」  
弟子屈小学校 6年 武山 蒼翔

- 奨励賞 「食品ロスと世界」  
川湯中学校 3年 上村 将斗
- 奨励賞 「だって、これが私のスタイルだから」  
弟子屈中学校 2年 本間 優季
- 奨励賞 「先輩への敬語と話す大切さ」  
弟子屈中学校 1年 小澤 莉菜
- 奨励賞 「選択」  
弟子屈中学校 1年 和田 衣都